

環境学習・環境啓発に関する意見交換

<市からの説明資料>

平成29年11月20日(月) 10時～

前半:市からの説明

後半:意見交換

説明内容

- 1 将来の運営体制イメージについて
 - 全体的な枠組み(各関係者の立場、役割等)
 - 豊田市エコットの運営体制との比較
- 2 今後の進め方について
 - 基本設計の意見交換(進め方、目的や視点)
 - プラットフォームの関わり方
 - 指定管理開始までの概略スケジュール

1

2

運営・活動の基本的な方針

- ◆市民が主役
- ◆市民・事業者・市の3者の協働

主役

事業者

市

3

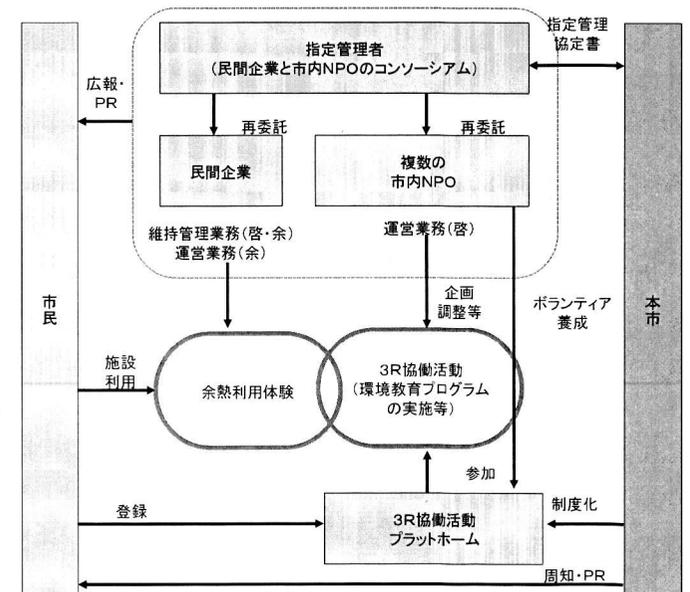
運営体制イメージ(案)

- ◆市民が主役
- ◆市民・事業者・市の3者の協働

主役

事業者

市

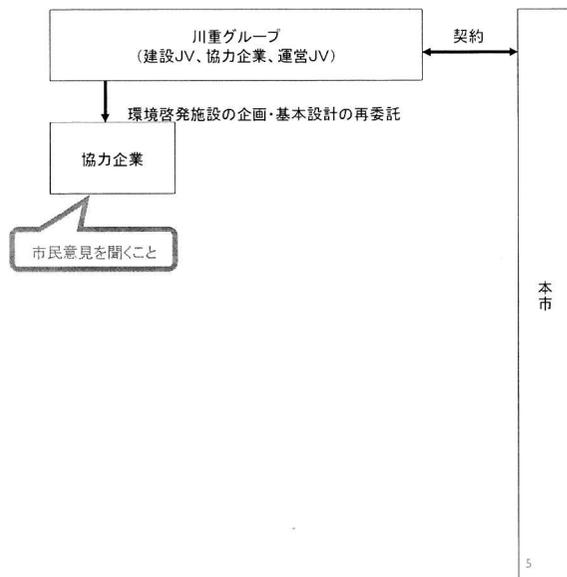


2

発注条件①

◆整備運営事業の入札では、環境啓発施設の設計に運営ノウハウを反映するため、協力企業の参加を求めた

◆基本設計にあたり、市民意見を聞くことを発注条件に



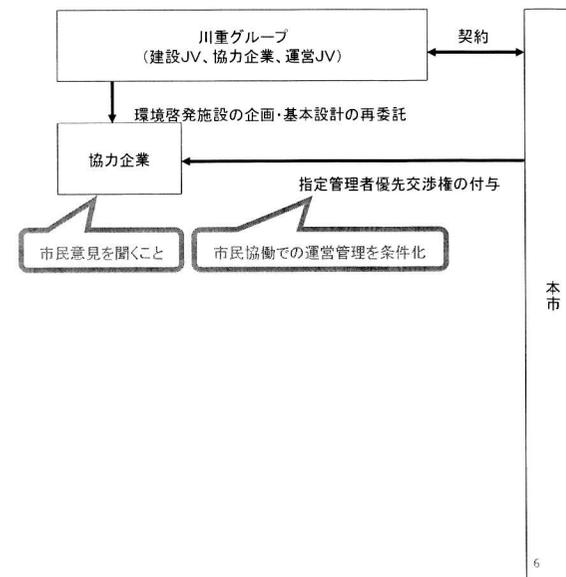
5

発注条件②

◆環境啓発施設の運営管理は、指定管理者制度を予定

◆協力企業には、指定管理者の優先交渉権を付与

◆市民団体等と協働で運営管理を実施することを指定管理の条件

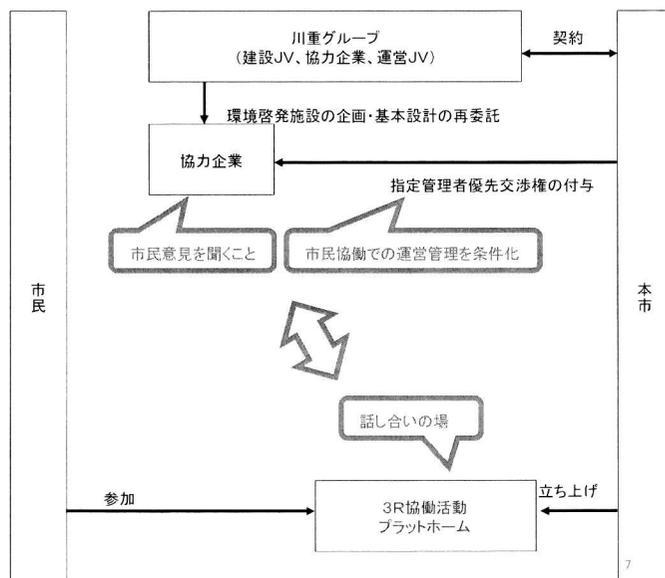


6

意見交換の準備①

◆市は、整備や運営について、検討段階から市民に関心を持ってもらい、主体的な参加を得るためプラットフォームを立ち上げた

◆プラットフォームは、環境啓発施設の整備と運営に係る話し合いの場

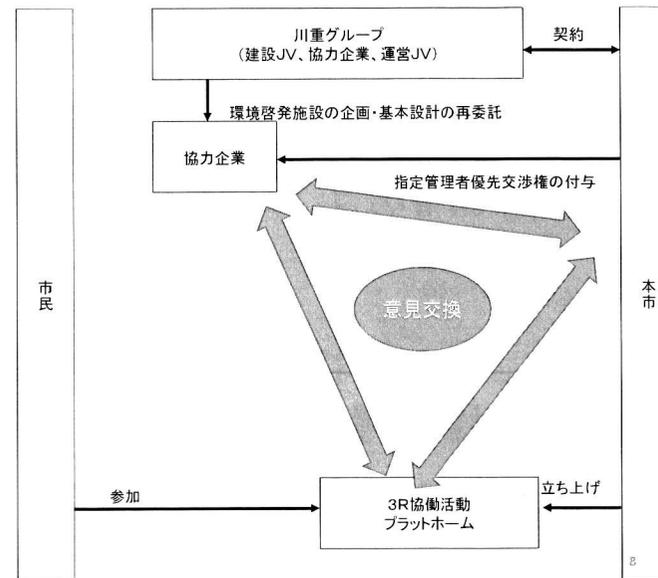


7

意見交換の準備②

◆本年度は、協力企業が実施する施設の企画と基本設計に係る意見交換を行う予定

◆協力企業の将来的な展望を踏まえて意見交換の方法を検討(具体的には後ほど説明)

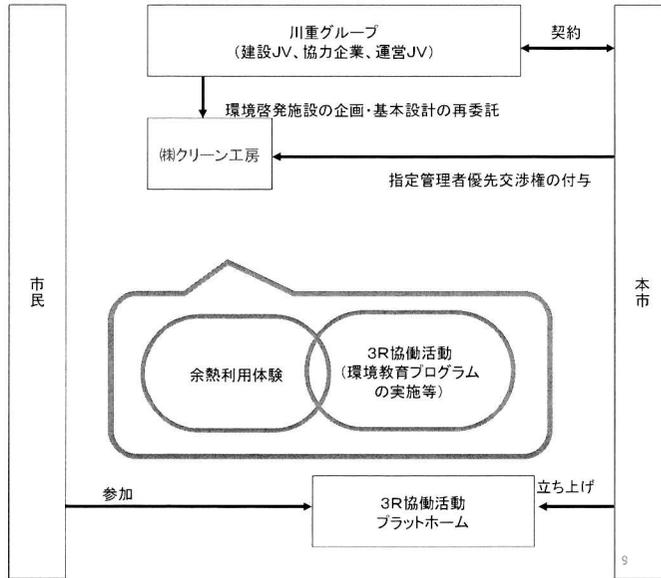


8

そのほかの 技術提案

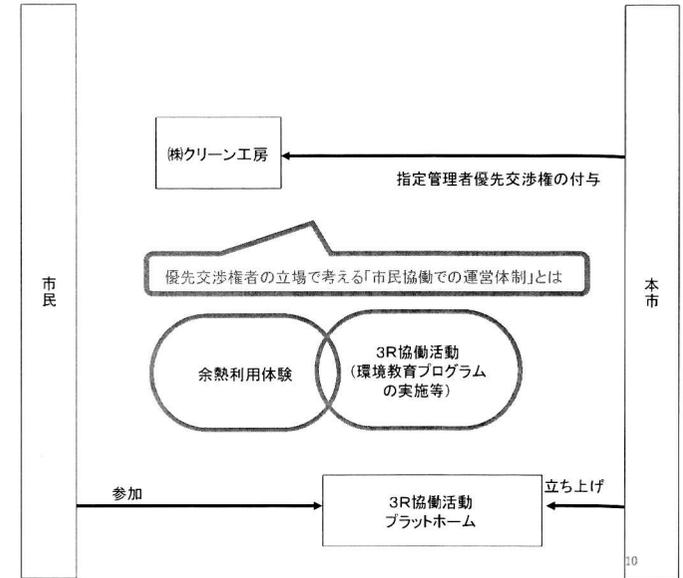
◆入札時の技術提案書では、協力企業2社のうち、(株)クリーン工房が余熱と啓発を一括して運営管理を行うとの提案

◆集客方策や共用スペースの有効活用など、工夫が期待される



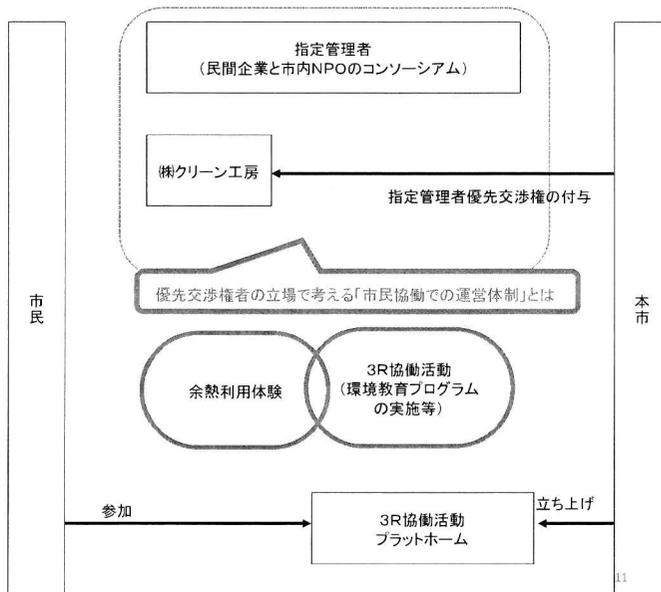
優先交渉権者の 役割

◆(株)クリーン工房は、指定管理優先交渉権者として、運営体制を検討する立場



クリーン工房 の構想①

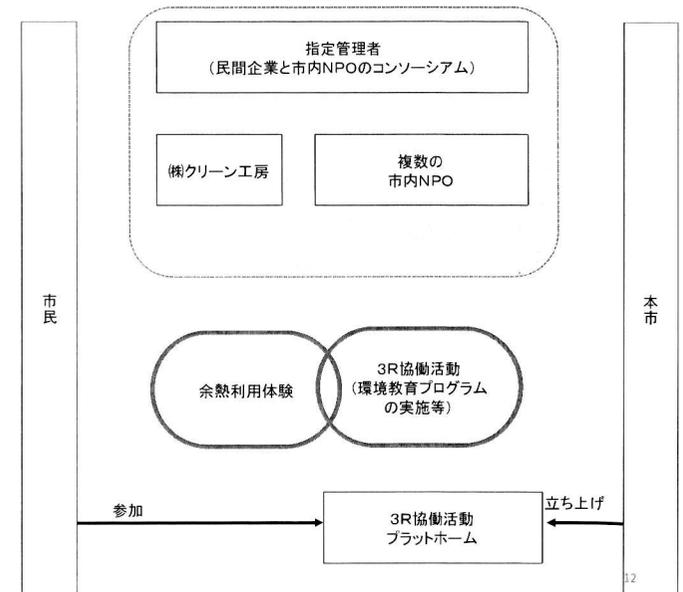
◆市民協働での運営管理については、市内NPOとコンソーシアム(共同体)を結成したいとの構想



クリーン工房 の構想②

◆市外企業である(株)クリーン工房としては、既に市内での活動ノウハウや経験値の蓄積のある市内NPOの協力を望んでいる

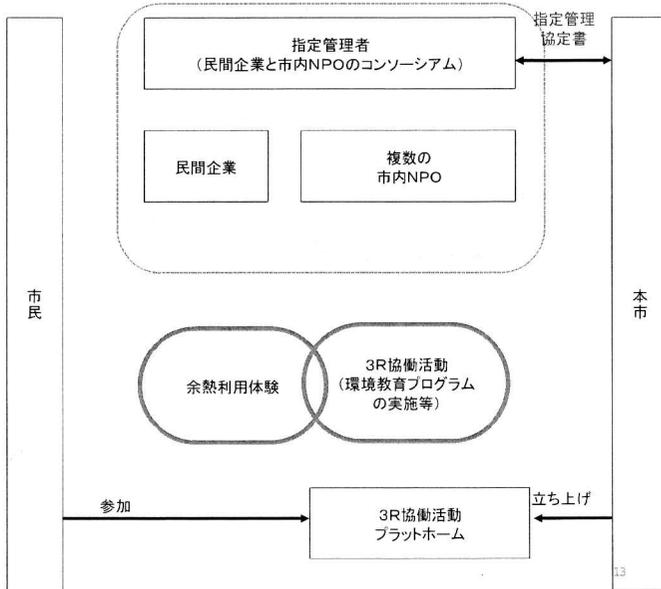
◆NPOは得意分野が異なるため、複数の市内NPOとの連携を想定



指定管理業務の実施方法

◆市が指定管理者を募集、これに応募し、指定の議決を受けられると指定管理者となる

◆業務内容は、包括的なものとなり、指定管理者には、裁量の範囲での創意工夫が求められる



指定管理業務の実施方法

指定管理業務は大きく、ハード業務とソフト業務に分けられ、それを包括的に実施（下記はあくまで一例）

ハード業務

修理再生棟の維持管理
 ○清掃、○警備、○点検・修繕、○補修、○上下水道・電気・熱の収支管理
 余熱利用体験棟の維持管理

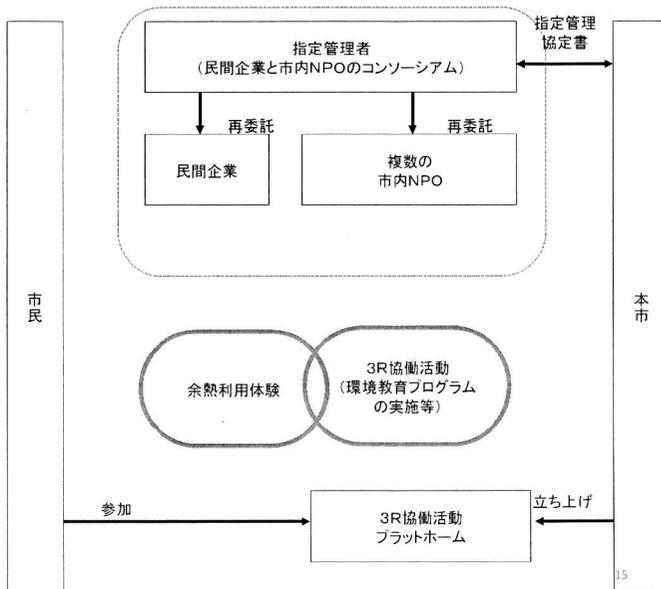
//

ソフト業務

修理再生棟の運営管理
 ○見学者対応、○家具等の修理再生、○プログラム企画(講座、展示等)、○ボランティア運用、○広報・PR、○料金收受 など
 余熱利用体験棟の運営管理
 ○入館受付、○料金收受、○イベント、○物販・飲食 など

指定管理業務の実施方法

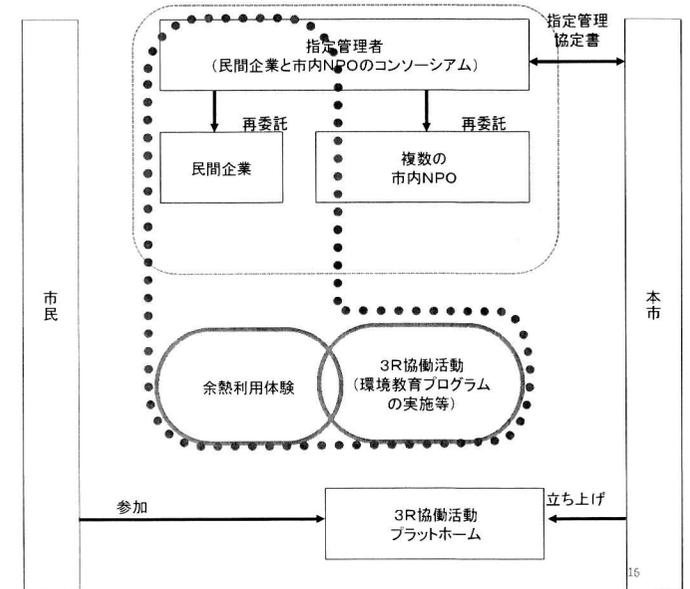
◆コンソーシアムとして実施する指定管理業務を、ハード業務、ソフト業務に分割して、構成員に再委託



指定管理業務の実施方法

◆コンソーシアムとして実施する指定管理業務を、ハード業務、ソフト業務に分割して、構成員に再委託

◆民間企業がハード業務全般と、余熱ソフト業務を担当

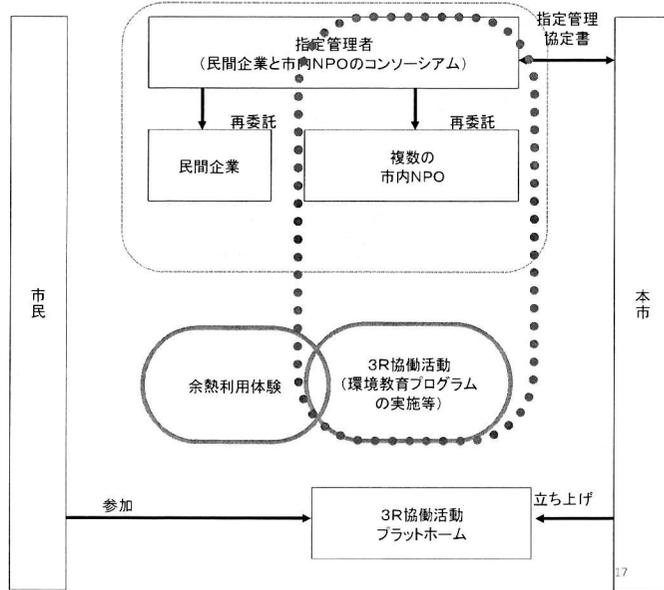


指定管理業務の実施方法

◆コンソーシアムとして実施する指定管理業務を、ハード業務、ソフト業務に分割して、構成員に再委託

◆民間企業がハード業務全般と、余熱ソフト業務を担当

◆市内NPOは啓発ソフト業務を担当

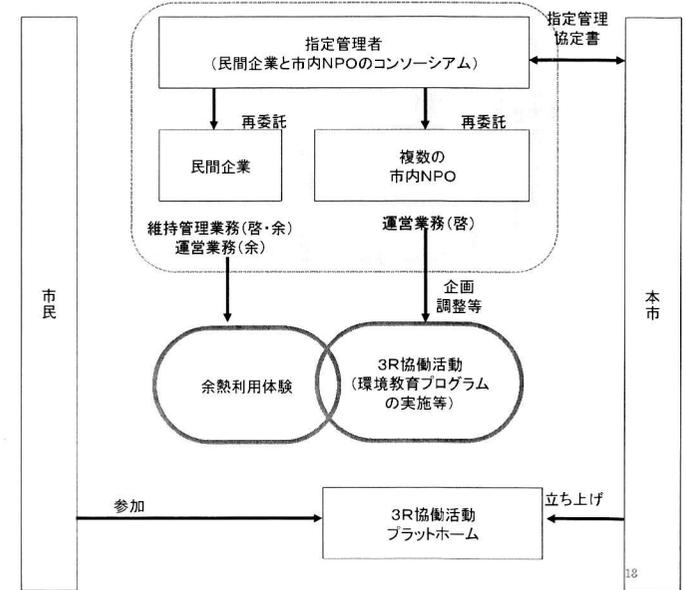


17

グリーン工房の構想のポイント

◆市内NPOは、民間企業と共に指定管理業務の元請となり、立場は同じ

◆それぞれの役割に応じた業務を、それぞれに再委託して実施

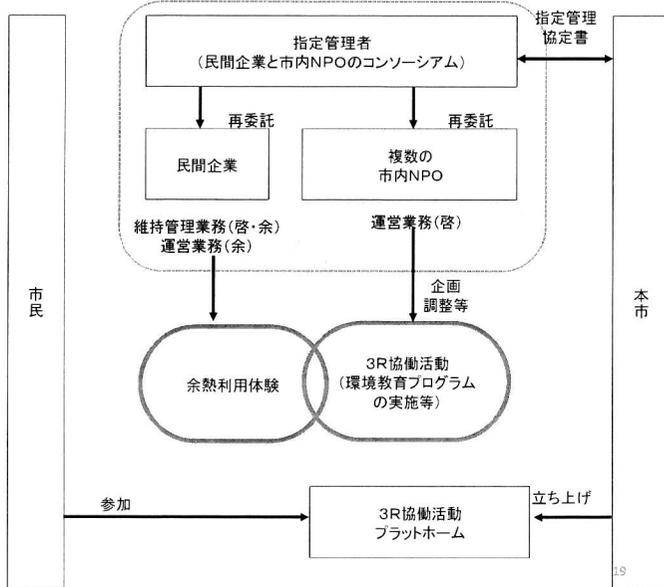


18

グリーン工房の構想のポイント

◆指定管理制度では、事業者がある程度の自由度や裁量を持つとともに、運営に関して責任を持つ

◆「民間ならではのノウハウやアイデア」+「市民目線や市民主体性」を活かした運営体制の構築が狙い

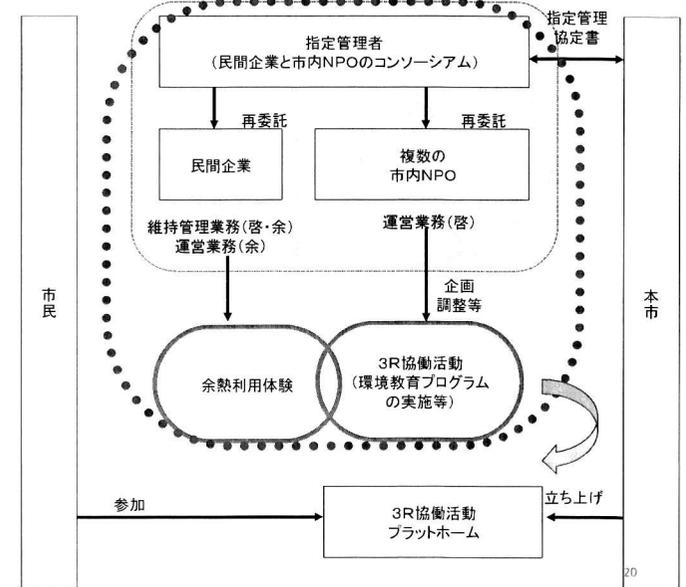


19

3R協働活動プラットフォーム①

◆指定管理者優先交渉権者として描く将来的な運営体制イメージが固まってきた

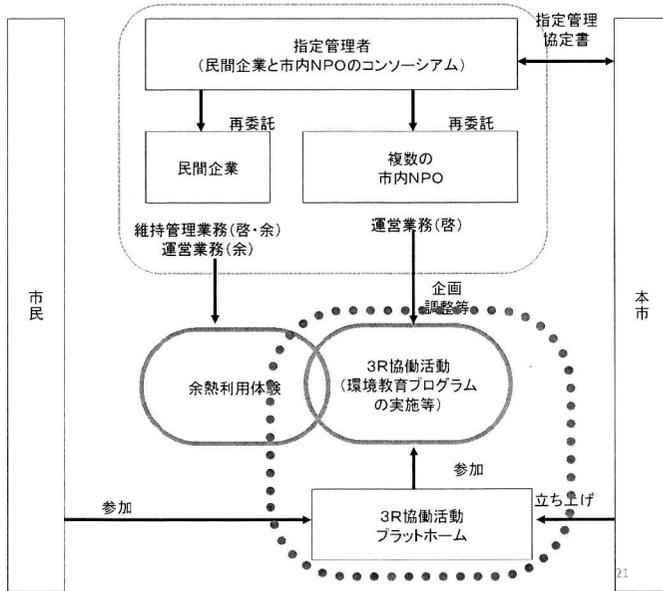
◆これを踏まえつつ、市民が主体的に活動を行うことを念頭に、プラットフォームの今後の発展のあり方を検討



20

3R協働活動 プラットフォーム②

◆3R協働活動は、ごみ問題のみならず、環境全般に係る市民活動を通じて、「気づき」や「学び」を得るために、市民主体で行われる活動プログラム

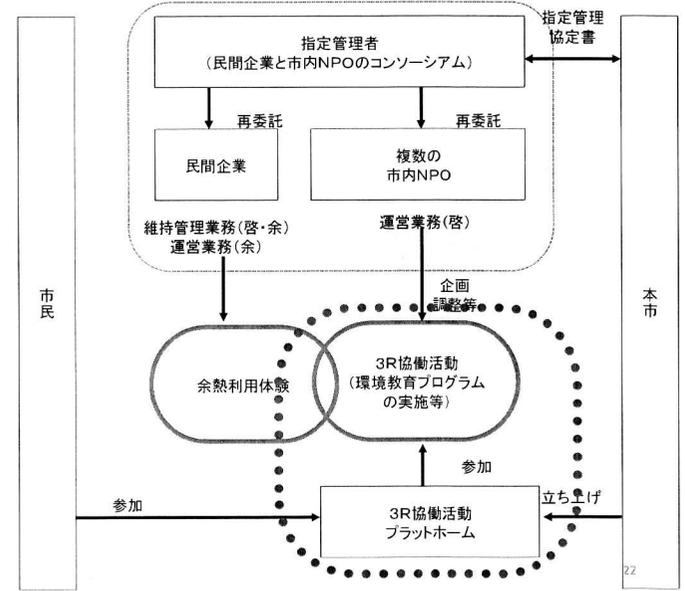


3R協働活動 プラットフォーム②

◆プラットフォームは、色々な価値観を持った市民の集まり

◆知識やスキルを活かして3R協働活動に主体的に関わる人材

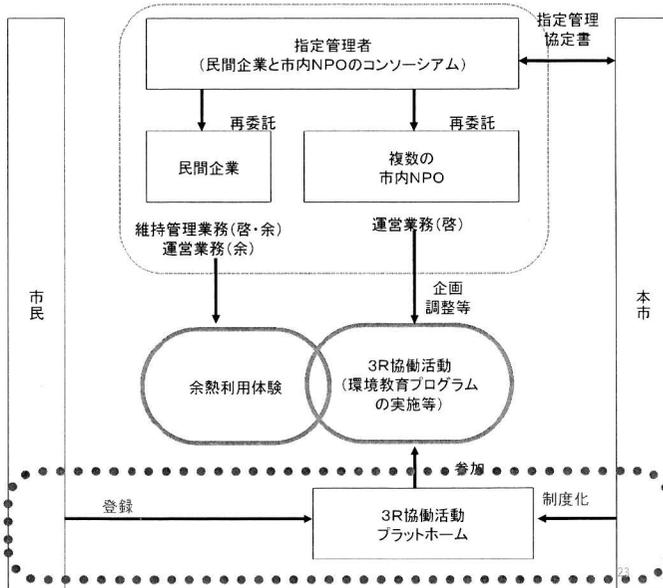
◆それぞれの主体性を尊重し、3R協働活動に参加できる仕組みづくりが求められる



3R協働活動 プラットフォーム③

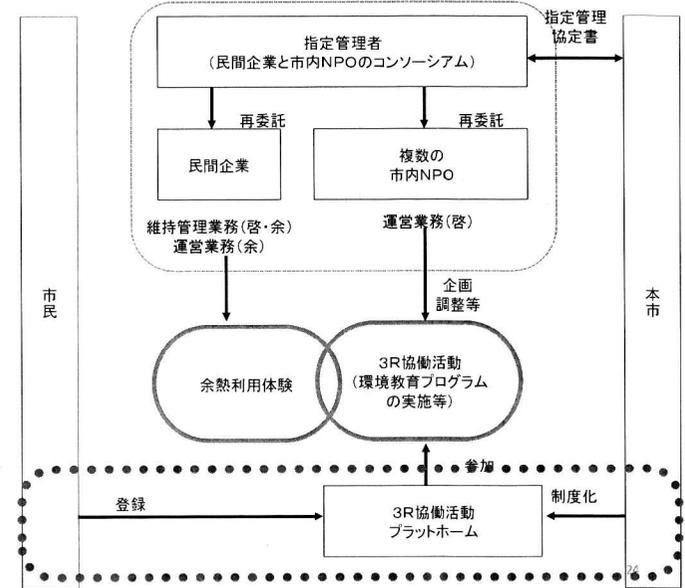
◆3R協働活動が継続するためには、持続的な体制が求められる

◆そこで、プラットフォームは、施設の運営や活動に主体的に関わる市民の受け皿として、市が制度化し、市民が登録する仕組みとする案



3R協働活動 プラットフォーム④

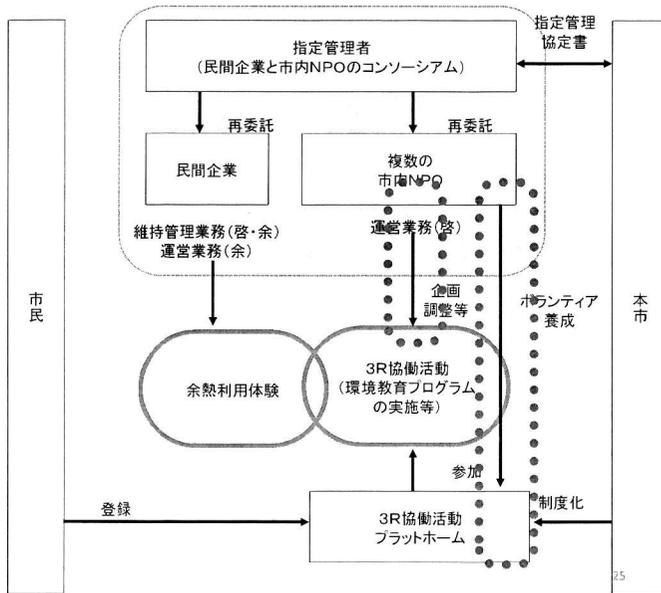
◆制度化することで、指定管理期間(5年)が経過しても、市民が主体的に参加できる仕組みが持続可能



3R協働活動 プラットフォーム⑤

◆市の制度であるが、
市民の主体性を尊重

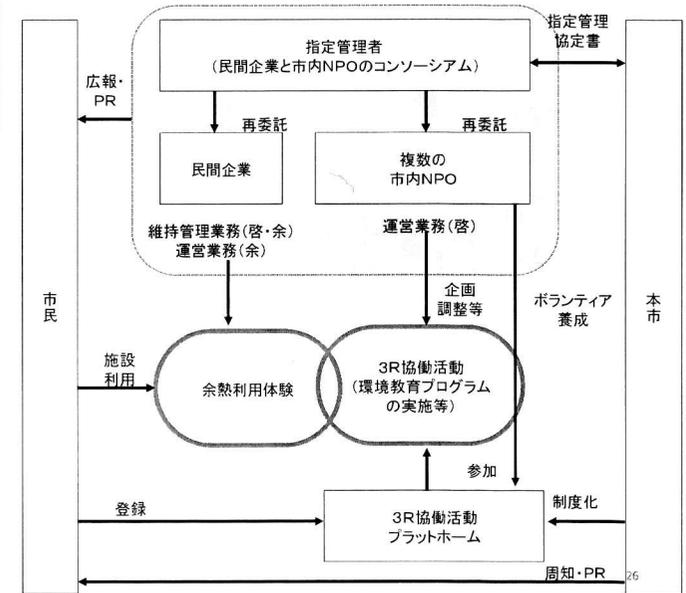
◆運営側の立場となる
市内NPOが、プラット
ホーム制度の活用と運
用や、必要な養成等
を行うことを指定管理
業務とする予定



運営体制 まとめ①

◆このような運営体制
を構築するとともに、プ
ラットホームの制度化を
進めるイメージ

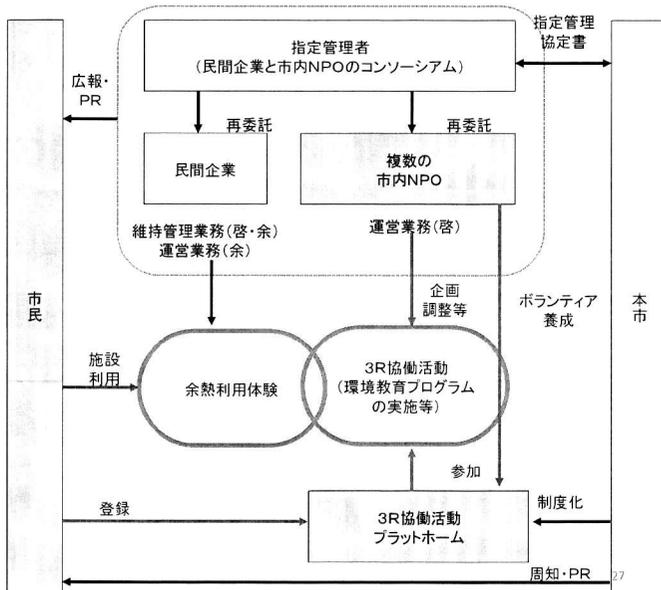
◆これにより、市及び事
業者から市民にPR等
を行い、市民が主役と
なる施設としていく



運営体制 まとめ②

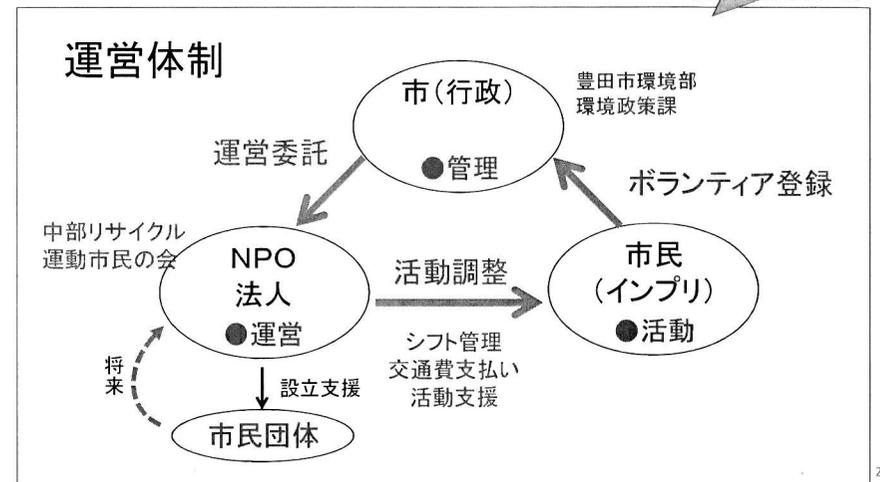
◆「市民が主役」につい
て再整理すると、

- 1) 施設の利用者となる
- 2) プラットホームへの
登録により、3R協働活
動に参加
- 3) 運営スタッフとして企
画調整等に関わる



豊田市エコットとの比較

エコット説明資料
より引用



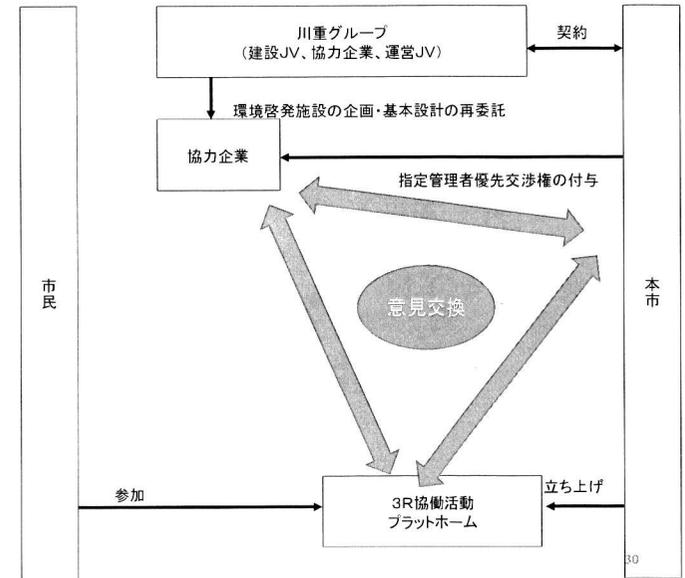
説明内容

- 1 将来の運営体制イメージについて
 - 全体的な枠組み(各関係者の立場、役割等)
 - 豊田市エコットの運営体制との比較
- 2 今後の進め方について
 - 基本設計の意見交換(進め方、目的や視点)
 - プラットホームの関わり方
 - 指定管理開始までの概略スケジュール

基本設計の意見交換(H29)

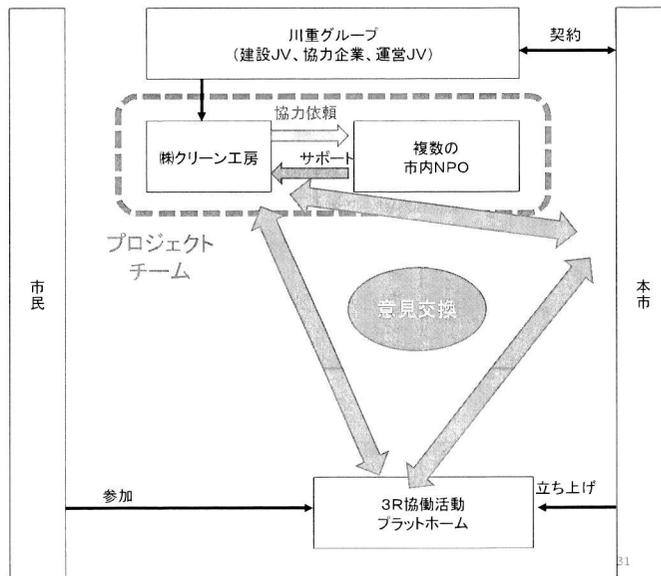
◆本年度は、協力企業が実施する施設の企画と基本設計に係る意見交換を行う予定

◆協力企業の将来的な展望を踏まえて意見交換の方法を検討



意見交換体制 (クリーン工房提案)

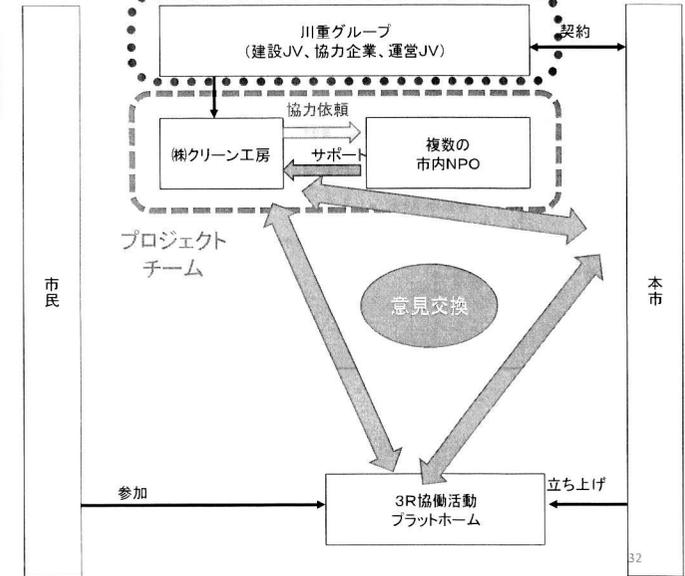
◆将来の運営体制を見据えて、今の段階から協力企業と複数の市内NPOとで、プロジェクトチームを結成したいとの意向



意見交換の目的や視点

◆地元意見を取り入れ作成した発注仕様書に基づき、川重グループが、施設のコンセプト、ゾーニング、レイアウトなどをプランニング

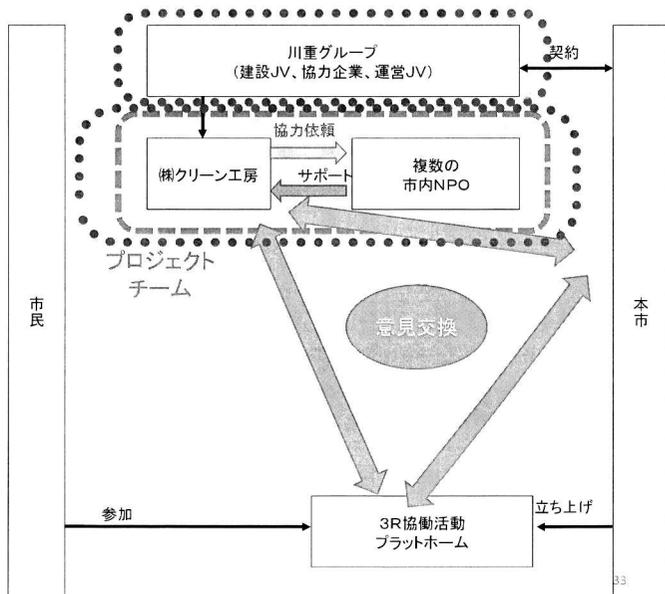
◆可変的な空間設計で、多様な用途に利用可能な施設を技術提案



意見交換の目的や視点

◆クリーン工房は、設計や運営の実績を有するプロとして、企画と基本設計を行う

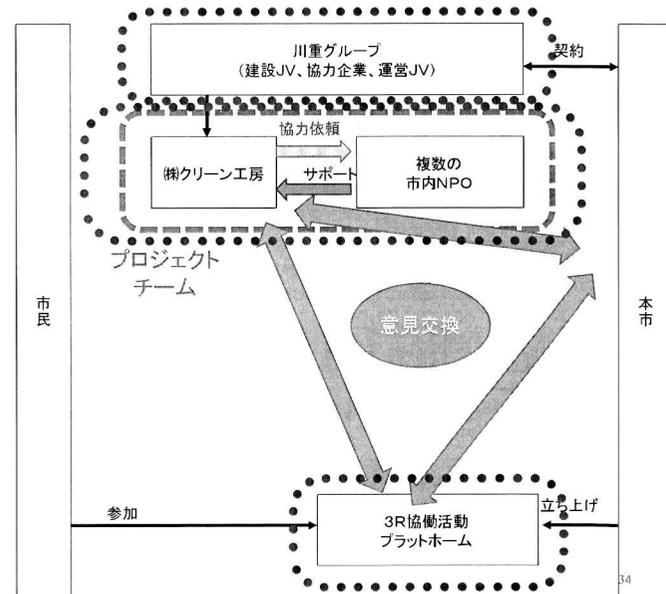
◆市内NPOは、プロ目線で技術提案されたプランに、将来的に運営側に携わる市民としてアイデアを加えていく



33

意見交換の目的や視点

◆プラットフォームの参加者からは、利用者として来館したり、自らが活動するイメージで、市民目線で自由な意見出し

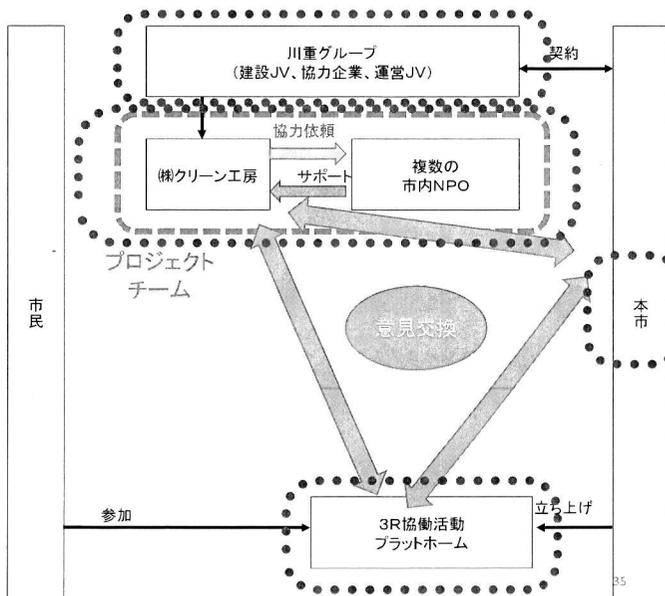


34

意見交換の目的や視点

◆市は、過去に地元提案を受けたプログラムが実施できるレイアウトとなっているかを確認

◆また、「市民が主役」となった活動や運営ができるか、プログラムの実現性はあるか、などを確認

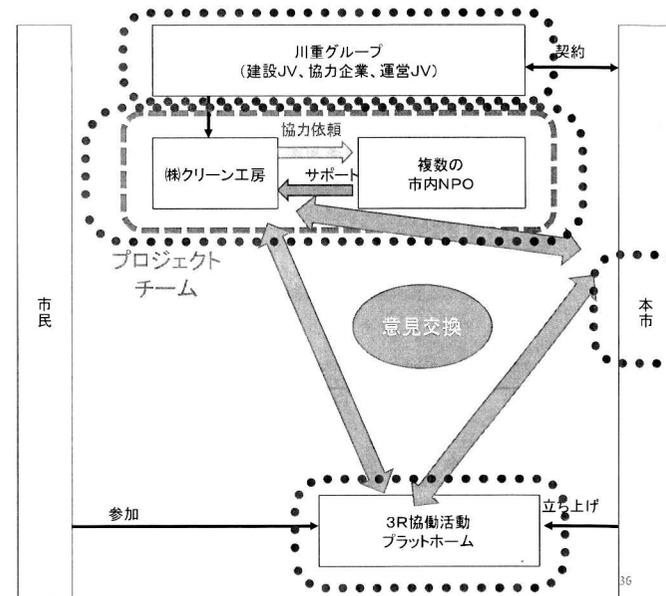


35

意見交換の目的や視点

◆併せて、市からプラットフォームへは、将来的な運営体制のイメージを情報提供

◆プラットフォーム参加者が主体的にプログラム等に参加できるような制度とすることを提案 (制度内容は運営側意見を聞いて今後検討)

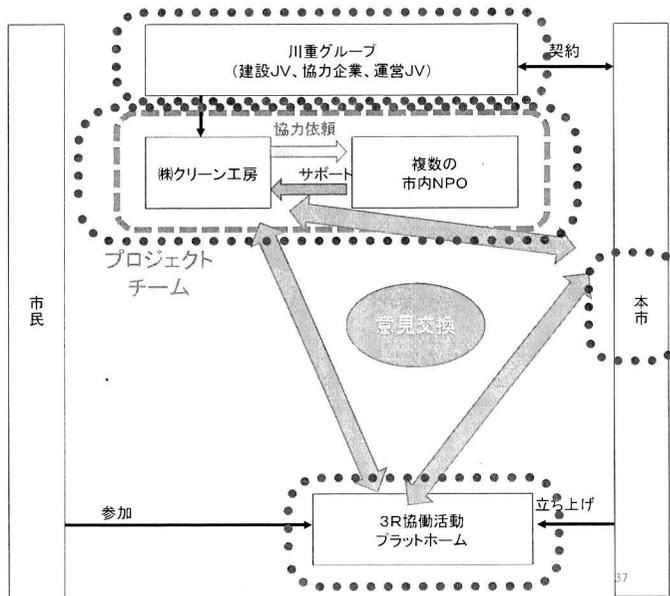


36

意見交換の 目的や視点

◆実施設計レベルの細かな話は、プロジェクトチーム内で検討・確認

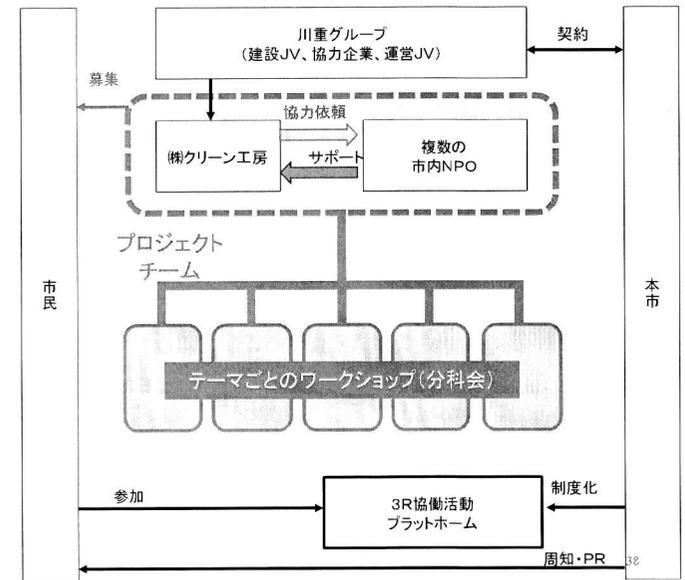
◆最終的には、クリーン工房がプロジェクトチームとして意見のとりまとめを行い、基本設計に反映する



その後の進め方 (運営・活動の検討)

◆今後、指定管理の募集に応じて業務提案を行うためには、運営・活動の実施レベルでの検討が必要

◆運営の主役と、活動の主役が共通のテーマで話し合うため、プロジェクトチームが検討テーマを設定



検討テーマ の一例

協力企業の運営ノウハウを踏まえ、プロジェクトチームが今後設定
(下記はあくまで一例)

環境学習プログラム検討WS

- ①見学者案内検討チーム
- ②講座検討チーム
- ③イベント検討チーム
- ④ビオトープ検討チーム

施設検討WS

- ①使い勝手検討チーム
- ②利用者ルール検討チーム

展示物検討WS

- ①〇〇〇チーム
- ②〇〇〇チーム

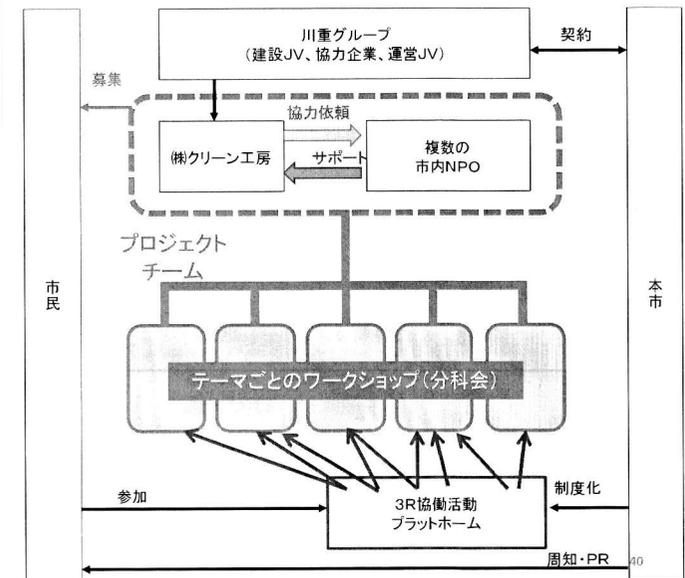
市民広報・PR検討WS

- ①〇〇〇チーム
- ②〇〇〇チーム

その後の進め方 (運営・活動の検討)

◆プラットフォームの参加者には、それぞれが関心や興味のある分野のワークショップ(分科会)に参加してもらう

◆テーマにそって新規の参加者も随時募集

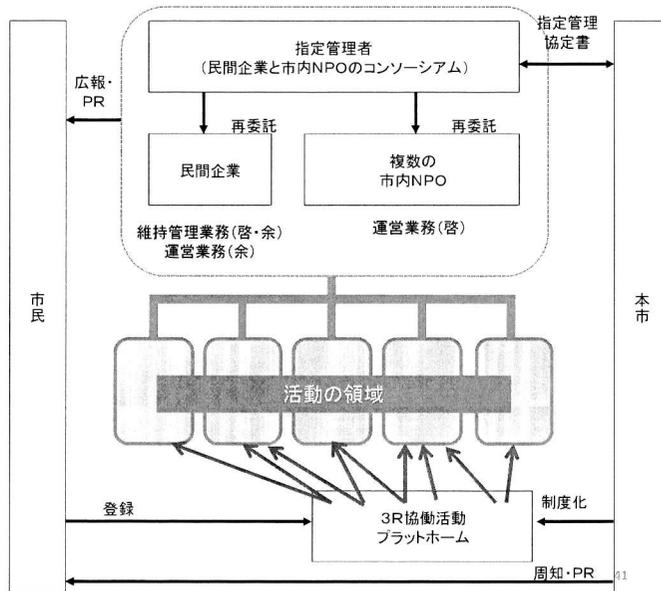


運営開始後の プラットフォーム

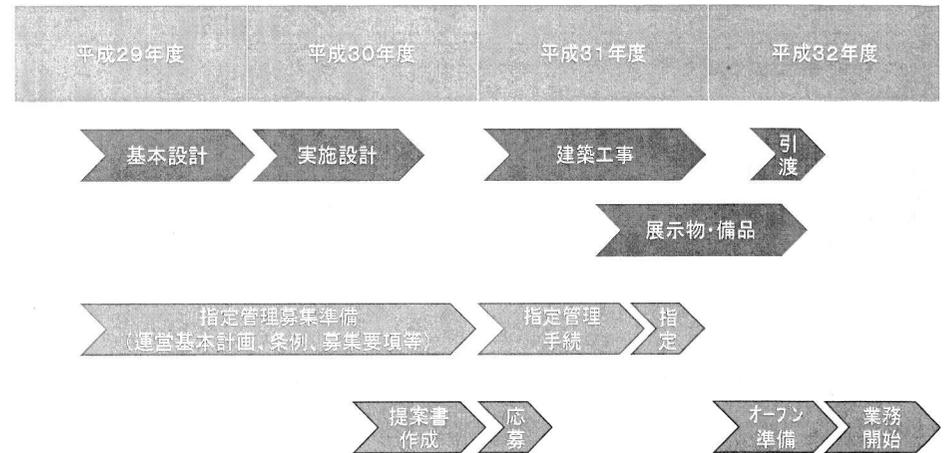
◆分科会から発展して、3R協働活動における活動領域がいくつかに分かれる

◆プラットフォームからは、得意とする活動領域に主体的に参加

◆そのサポートを運営スタッフが行う



指定管理開始まで概略スケジュール



説明は以上です

・本日の説明のポイントは次のとおりです。
これらについて意見交換をお願いします。

- ① 将来の運営体制イメージ
- ② プラットホームの方向性(制度化)
- ③ プロジェクトチームの位置づけや狙い
- ④ 今後の進め方